
愛される資格のない女

雫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛される資格のない女

【Nコード】

N6863L

【作者名】

雫

【あらすじ】

34歳のOLの私。過去に複数の男性と同時進行した関係もあった。愛って何だろう。本当に心から愛した事や愛された事はあっただろうか。今までを振り返って過去の私を見つめ直すそんな実話系小説。

私について（前書き）

不倫、男性との複数同時進行の関係に不快感を感じる方はご注意ください。

小説内の氏名は実在の物ではありません。

私について

私は、ゆかり。高岡 ゆかり。

都内でOLをしている冴えない独身女だ。

来月で34歳・・・

後一年で、母が亡くなった歳になる。

早くに母を亡くしたせいだろうか・・・

私は、幼い頃から長くは生きられないと思っていた様に思う。

冷めた子供だった・・・

美男美女の両親を持った割には、普通の容姿に生まれついた私は、周りの大人達の目に可愛らしく映ることを義務とされてきた。

母の努力が実ったか、小学校を卒業する頃には近所でも評判の美少女と呼ばれた。

愛されていなかったわけではないと思う。歳の離れた妹がいるが、同じように愛されていた。

素直な妹と素直になれない私・・・

最初に受け入れられなかったのは、きっと私・・・

その頃には、もう、周りの顔色を伺い、相手の望み通りの自分を装う事を覚えていた。

いつもどこか満たされない・寂しい・
いつも愛情にどこか飢えていたのは、私が
とても貪欲だからだろうか。

雪のように真っ白な肌に艶やかな亜麻色の
髪、血を映したかの様な真っ赤な唇・

何も知らない無垢な子供だからこそその色気
だろうか・小学校の男性教師や父兄の気
を引くことは簡単だった。

媚を含んだ眼差しだけで、簡単に優越感
を得ることが出来た。

微笑みひとつで思惑通りになる男達を
心にどこかで軽蔑していたが、与えられる
愛情の欠片はその頃の私には必要なものだ
った。

ただ、体だけは誰にも与えなかったのは、
少女故の潔癖さだったのだと思う。

いつわりの私

学生時代。

いつも微笑む私がいた。

義務教育の子供は自分と違う者に
敵しい。

背も高く大人びた体つきで、大人達
の顔色を伺い、先生に媚を売る私は、
子供たちの中で異分子だったと思う。

子供の世界で、大人びて美しいのは
一種の武器になる。

虐められる事はなかったが、仲間
に入ることも出来なかった。

入ろうと思わなかったのかも知れない。
日々の出来事に一喜一憂する姿は、
私にはずいぶんと子供っぽく映った。

校内外で写真が売られ、年上年下に
限らず・・・男女さえ問わずによくモテ
た。

モテたのだろうか・・・

よつぽどモノ欲しそうな顔をしていた
のかも知れない。

愛に飢えた私の存在を敏感に感じ取っ
て 群がっていただけなのかも知れない。

だが、不思議な事にその頃の私は、
自分の体を使って寂しさを満たそうと

は思わなかった。

その分、好意を持ってくれた人に対して残酷な程に心を弄んでいた。

愛されているのは見た目だけ・

誰も本当の私を好きじゃない。

見た目だけに騙される男なんて傷ついてしまえばいい・・。

そんな頑なな気持ちになったのは、通学途中に車に引きずり込まうとしたり、追いかけまわしたりする心無い男達がいたせいかも知れない。

代償行為

大人になった私は、SEXで一瞬心が満たされる事を知った。

代償行為だということは気がついていた。

初めての時から、羞恥も貞操観念も無い私は、満たされない部分を複数の男で補うことを覚えた。

抱かれている間は、愛されている気持ちになれる・・・

でも、本気で愛情を寄せてくれる相手とだけは絶対に寝なかった。

相手のことを心使ったのでは無いと思う。きっと、自分が本気になって傷つくのが怖かったのだ。

遊びで始まった関係も、複数の男と関係を持つことで、何人かの男は夢中になり、結婚を望むことがあった。

でも、ふたりでいる夜のほうが寂しいってことを知った私が、応じることはなかった。

服や宝飾品や車、望むものは大抵の男に望むままに与えられた。

完全に手に入らない女に、男がどれだけ夢中になるかを知った私はゲームの様に関係を楽しんでいた。

でも、同時に心まで完全に手に入ったと

思われれば、簡単に捨てられる様な薄っぺらな関係でもあった。

多い時には、日替わりで男を変え、複数の男と同時にベットに入った事もあった。

そんな日々に嫌気がさしたのは、男たちとの愛憎のもつれでストーカー行為等警察にお世話になっていた頃・・・

お世辞にも可愛いとは言えない様な従姉妹が資産家の男と結婚したのだ。

身内にさえ、チビ・デブ・ブスの三重苦と言われていた女の子が、優しそうで誠実そうな男性を射止めた事に驚きとともに喜びをもたらしした。

その出来事に、私は強い敗北感を感じた。女として負けた気がした。

ただ、男の虚栄心と性欲を満たす為だけに存在するかの様なお飾りの私。

彼女は、美しさとは無縁だが、誰よりも愛されている真実の愛を見つけた気がした。

自分で望んだ結果なのだが、愛の無い関係が虚しいと感じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6863/>

愛される資格のない女

2010年10月14日15時04分発行